認定特定非営利活動法人（認定NPO）

インド福祉村協会

会報
2019.8.1
Vol.32

India Welfare Village Society News

http://iwvs.jp/ インド福祉村協会 検索 E-mail／info@iwvs.jp

特定寄付金に税制上の優遇措置が認可（ボランティア募集中）

2019年10月でアーナンダ病院は21周年を迎えました

JICAJPP 事業

「インド農村地域における糖尿病の予防、啓蒙、改善プロジェクト」

2018年3月から開始されたこの事業は2019年3月で、アーナンダ病院のSTAFFの努力で下記の記録が達成されました。

初年度総計

- 訪問 30回、計1607家族
  に対して活動を行いました
- STAFF 14名
  （うち日本人 12名）
- 血糖検査人数 350名
- 病院受診者数 68名
  （検査で治療の必要ありと判断され受診した人）

ホームページもご覧ください。

http://iwvs.jp/ インド福祉村協会 検索

アーナンダ病院やインド福祉村協会の情報はもちろん、動画でも現地の様子を見ていただくことができます。

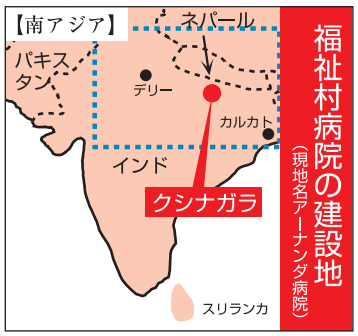
2018年8月～2019年6月のあゆみ（H30.8月～R1.6月）

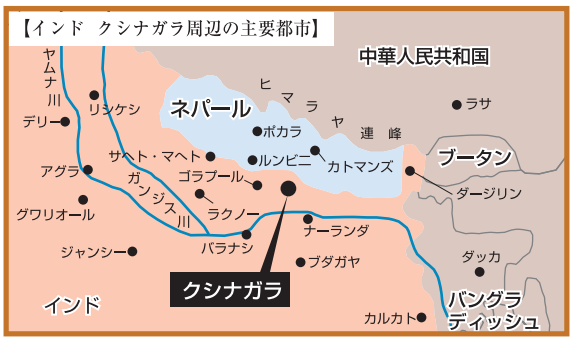
18.8月	● 大竹理事、三瓶理事　現地訪問、JICAJPP事業　自動血圧計設置 ● 三重大学医学部　岡村聡医師、寺沢氏　現地研修
9月	● IWVS理事会（豊橋）
10月	● RUBINA　結婚式
11月	● 大竹理事、中村理事　現地訪問、JICAJPP事業継続と発展 ● 浜松医科大学医学部　佐々木祐輔氏、高山尚輝氏　現地研修、通訳同行
12月	● IWVS理事会（名古屋）
12月	● 名古屋大学医学部　柳隆之介氏　現地研修
19'2月	● 大竹理事　現地訪問。JICA中部 梅村尚美氏同行。JICAJPP事業の現状と今後の展望検討、通訳同行 ● 横浜市立大学医学部　市川健斗氏、古谷尚士氏　現地研修
4月	● N,K,MISHRA（SGIPGI学長）　日本訪問、医学会参加 山本左近理事長とアーナンダ病院の現状と将来を検討
5月	● 大竹理事　現地訪問、JICAJPP事業検討 ● P,N,GUPTAとラクノー SGIPGI訪問、N,K,MISHRA学長と面会 ● IWVS理事会、年度総会開催（名古屋）

（象は重要な労働力）

（スタッフとランチ）

（大竹氏とグプタ家族）





（スタッフ一同）

現地住所	ANANDA　HOSPITAL　TEL:91-92354-24671／91-5564-217544 住所:VILLAGE SIRSIA DIST KUSHINAGAR　274403.UP.INDIA

入会のお願い

正　会　員：**年会費（5,000円×　口）**：総会の議決権があります。協会の会報と情報を毎回お届けします。
賛 助 会 員：**年会費（1,000円×　口）**：協会の会報をお届けします。
特別協賛会員：**年会費（50,000円 以上 ×　口）**：正会員と同等。協会の会報をお届けします。
法人協賛会員：**年会費（50,000円 以上 ×　口）**：正会員と同等。協会の会報をお届けします。
寄付協賛会員：　　**円（物品その他）**※自由な金額を寄付できます。
一 般 寄 付：文房具、物品他、受け付けています。

【会費・寄付の支払い方法】
郵便振替　口座番号:00830-2-65008　加入者名:インド福祉村協会
郵便振替用紙を利用し、最寄りの郵便局より手続きを行ってください。ご一報いただければ振替用紙をお届けします。
銀行振込　ゆうちょ銀行　口座番号:0065008　支店名:089　種別:当座　加入者名:インド福祉村協会
入金が確認されましたら領収書をお送りします。寄付金は、税制上の優遇措置が受けられます。

すぐ寄付したい方は
オンライン寄付へ
http://www.giveone.net/

募金のお願い
少しでもあなたの善意を
分けて下さい。

東海ろうきんのNPO寄付
システムもご利用いただけます。
https://tokai.rokin.or.jp/shakai/npo.html

ホームページからクレジットカードで決済ができるようになりました。詳しくはホームページをご確認ください
ホームページ／http://iwvs.jp

インド福祉村協会（INDIA WELFARE VILLAGE SOCIETY）
理 事 長／山本左近　専務理事／髙木元昊　常務理事／大竹紘一
理　　事／三木隆治、伊藤孝道、中村義博、田中久子、K·L·バハール、樋口恵子、加藤伸也、吉田晃
事務局長／請井政広
ホームページ／http://iwvs.jp　E-mail／info@iwvs.jp

■発行者 インド福祉村協会（IWVS）
■発行人 山本左近　■編集 大竹紘一　■協力 文創社
■インド福祉村協会事務局
〒441-8124 愛知県豊橋市野依町字山中19-14
TEL:0532-46-7511　FAX:0532-46-4899

診察の記録

アーナンダ病院　グプタ院長

20年間で約42万人の患者を診察してきました。特に最近の患者の治療と生活教育に注意して、笑顔で、丁寧に話をしてきました。最近の傾向は季節によって増減しますが、1日70名～100名の患者が来院いたします。特に重症患者が減少して、早めに、軽症のうちに来院する患者が多くなりました。

インド経済の劇的な発展と共に、農村民の意識改革が大きく変わりつつあります。生活レベルも向上して、病院に来られない患者はなくなりましたね。しかしながら不可触民と言われる貧民は未だ多く、生活の格差は広がっております。

高血圧、糖尿病などの成人病が増加傾向にありますが、初期の感染症も多くみられます。

最新の医療機器も多くなりましたが、検査代が高くなり実施できないので、患者への聞き取りで判断することが多くなります。

今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

（病院スタッフ全員）

【患者数】男性43%　女性55%　小児8%

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目
総患者	15,310名	21,140名	18,606名	16,910名	20,636名	22,578名	21,573名	21,275名	15,310名	24,237名
新来患者	6,756名	7,946名	6,247名	5,593名	7,547名	8,191名	8,274名	8,143名	6,756名	9,680名
再来患者	8,554名	13,194名	12,359名	11,317名	13,089名	14,387名	13,299名	12,800名	8,554名	14,557名

	11年目	12年目	13年目	14年目	15年目	16年目	17年目	18年目	19年目	20年目	統 計
総患者	22,548名	22,623名	18,287名	19,519名	19,212名	20,457名	22,366名	22,312名	22,320名	21,052名	416,712名
新来患者	9,217名	9,245名	7,452名	8,161名	7,897名	8,970名	11,370名	11,935名	11,856名	11,156名	174,864名
再来患者	13,331名	13,378名	10,935名	11,358名	11,315名	11,487名	10,996名	10,377名	10,464名	9,896名	241,848名

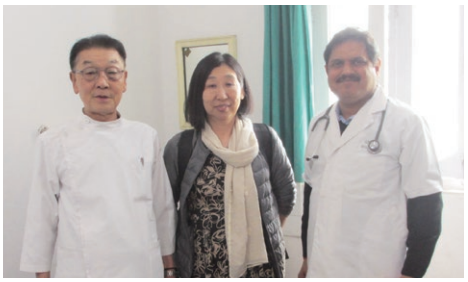
遠隔医療　自動血圧測定　最新報告　2019年4月

インド福祉村協会　理事　三瓶 宏一

2012年1月から開始した自動血圧測定機による血圧測定患者数は2019年3月中旬で累計10万人を越えた。以前から報告している血圧正常値（Normal）の患者の割合の減少が更に進み、ここ7年で14%減少し、ついに全体の50%を割り込んでいる。高血圧患者数の推移から見ると、最高血圧140mg、最低血圧90mg以上の定義の高血圧患者（Hyper）の割合は全体の20%と、ここ7年で7%増加している。

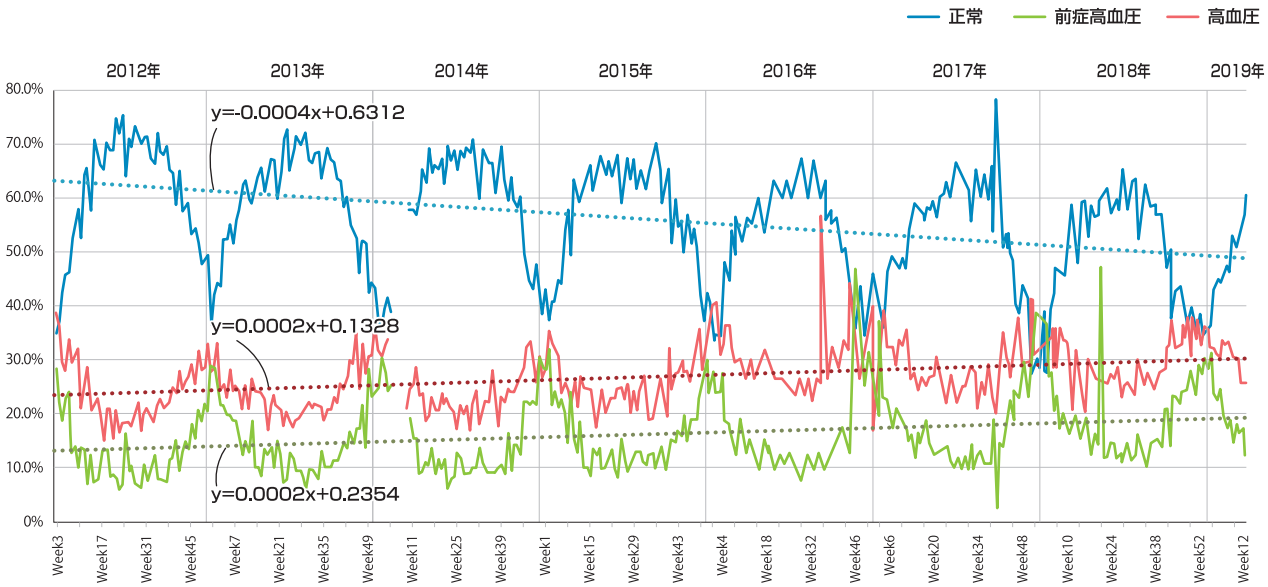
下記は2012年1月から2019年4月20日までの7年3か月の、1週間毎の血圧患者の血圧を、正常（青）、前症高血圧（黄緑）、高血圧（赤）の3つの割合の変化を表したものである。正常値は夏の気温が高い時期には測定室は平均気温が35℃程度になるが、その頃には測定数全体から見て正常値を示す患者の割合が60%近くまで上がるが、1月ころには平均気温が20℃以下になってくると、その割合が40%台以下まで落ちて来る。よってグラフのような夏にピークが来る繰り返しが7年分で7回観測されているのがわかる。

引き続き、JICAの糖尿病予防活動と共に生活習慣改善の導を進める必要がある。



（大竹氏、梅村氏、グプタ医師）

（スタッフ一同）



研修レポート

浜松医科大学医学部　佐々木 祐輔

診察では、グプタ先生は忙しい合間を縫って患者さんと診察について説明していただきました。グプタ先生は21年間、現在まで40万人以上の患者さんを診察してきた、多くの経験があり、地域医療に対して熱い思いを持って取り組む素晴らしい先生でした。

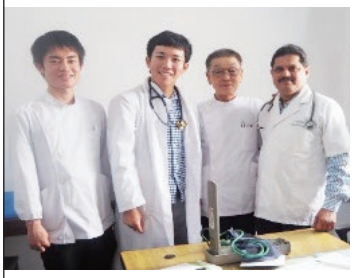
患者さんの特徴としては、糖分を多量に摂取してしまうため肥満の人が多く、食べて後にすぐ寝るためGERDになる人が多いとのこと。また大気汚染が深刻で喘息が多いとのことです。

診察は設備が充分でないため主に問診、触診、聴診、また簡単な血液検査を頼りに行っていました。グプタ先生に腹部の触診を主にご指導いただき、マラリアによる肝腫大、脾腫大の患者さんを触診しました。また、頭痛の鑑別についてインドでは血圧による頭痛、頭蓋内病変による頭痛のほかに、視力が悪いのにも関わらず、眼鏡をかけないで生ずる頭痛を考える必要があるとのことでしたが、最近は改善はされつつあるようです。

インドでは有効成分がない、または低いフェイクドラッグが流通しており被害者がでていること、インドの中に様々な言語が混在しているため、医学教育が共有化しにくいことも、医師免許を金で買い、診察する人もいるくらい問題が深刻だと、インド医療問題を教えていただきました。

昔は、薬は投げて渡す、診察の順番はチップによって変える、患者さんに暴言を吐くなど、ひどい状態であったそうです。それをインド福祉村協会の大竹さんを始めとするスタッフの皆さんが根気よく病院の理念を教育し、緊密なコミュニケーションをとることで少しずつ変えていったそうです。病院として一貫性をもって、スタッフとの意見交換を欠かさない風通しの良い組織だからこそなしえたことだと感じました。

インドアーナンダ病院での活動を通じて、日本では中々見ることがないマラリアや腸チフス回虫症の患者さんの診察をしました。また、地域の村への糖尿病、教育、啓蒙活動を通じて正しい知識を広める大切さを学びました。さらに院長との会談、定例会議の参加など滅多にない体験を通して、インドが抱える問題と、それに真摯に向き合い解決していこうとする方々の思いにふれ、身が引き締まる思いです。このような海外の医療、文化に触れる私の人生の中で味わったことのない体験をさせていただくことが出来たのも、インド福祉村協会様、アーナンダ病院の皆様のお声掛けと手厚い御協力のおかげです。深く御礼申し上げます。


（佐々木氏、高山氏、大竹氏、グプタ医師）

（部落訪問）

（市街地での活動）

研修レポート

浜松医科大学医学部　高山 尚輝

わが医学部の硬式テニス部はバザー収益金の一部をインド福祉村協会へ寄付させて頂いているので、その縁で今回の研修となりました。

グプタ先生の診察は「LISTEN」であると教わりました。患者さんは、満足な教育を受けてない、情報がない等の問題を抱えていますが、それをしっかりと聞き、診て周りの人の情報をよく聞いて診断するのだと教えていただきました。日本ではパソコンに向って流れ作業的に診療が行われているのに、グプタ先生のこの精神を大事に日本へ持ち帰りたく思います。非常に丁寧に英語で解説しながら診察されてとても勉強になりました。

季節性の咳のある人、チフス、マラリア等、日本ではみられない疾患を多く見ることができました。日本の援助で行う、ジャパン慈善病院として、インドの農村地域の人々に十分貢献していると、身をもって感じることが出来ました。

アーナンダ病院の皆様、ありがとうございました。

研修レポート

名古屋大学医学部　柳 隆之介

グプタ先生の外来指導を受けた、患者さんの多くが感染症を患っており、白癬や腸チフスが目立ちました。グプタ先生の患者さんへの対応は非常に学ぶことが多くありました。患者さんが話し終わるのを待ってカルテに記入して、よく話す姿勢には驚かされ、日本でも実施したいと思い、大変勉強になりました。

A型肝炎の患者さんが何人か散見されましたが、インドでは多いそうです。そこで肝臓の触診の仕方をはじめて教えてもらいました。

アーナンダ病院の3日間は新鮮で、経験にとんだ素晴らしい時間でした。スタッフのみなさんが「遠慮せず、恐れず、何でもどんどん聞いてください。きっと良い経験になるはずですよ。」と話してくださり安心しました。皆様の親切有難うございました。次回はぜひ医師として訪問したく思います。

（診察室）

（会議の様子）

（フィールドワーク）

（農村部での活動）